

◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料440円



ざよぶつ
御物和漢朗詠集

- 1、字句||みちとせに
 - 2、形式||半紙をたてに使い、大筆で中央に一行で臨書する。落款は、左余白に本文に添う大ききで「○○臨」と入れる。
 - 3、概観||和漢朗詠集は、平安中期(一、○○○年頃)に藤原公任が「和歌と漢詩の朗詠に足る秀作を集めたものを、藤原行成が書いたと伝えられています。又、この古筆を、仮名の大家として知られる尾上柴舟が「かな習得の手本」としたと言われています。
今回のシリーズでは、仮名の基本を再確認して創作に生かすことができるような学びを目指します。
 - 4、学習のポイント:単体を学び直す(その1)
- ◎大筆を使用して仮名特有の起(始)筆・収(終)筆の筆遣いを学ぶ。
『み』スーッと入り(○)半円を描くようにして止め(・)斜め下方に進みゆっくりと三角形に結び、軽く止めて(・)二筆目に入りゆっくりぬく(∴)『ち』一筆目はスーッと入り(○)長目に引いた二筆目の(・)で軽く止めて方向を変え、収筆はゆっくりとぬく(∴)『と』スーッと入り(○)で三角形を描くように運び、収筆はゆっくり(∴)『せ』へ向かう。『せ』は「と」の連綿を受け筆を突いた(○)起筆からやや右上へ引き上げ二筆目へ。下から受けて(・)三筆目を運び、収筆は軽く止めて(・)に「へ。」に『に』一筆目からつながるように(∴)二筆目へ。三筆目の収筆は軽く止める(・)。

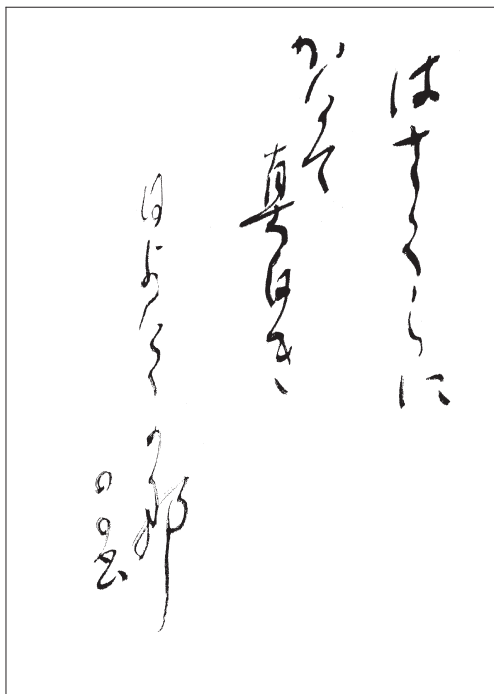
半 紙 課 題 (予 告) (五月二十二日締切)

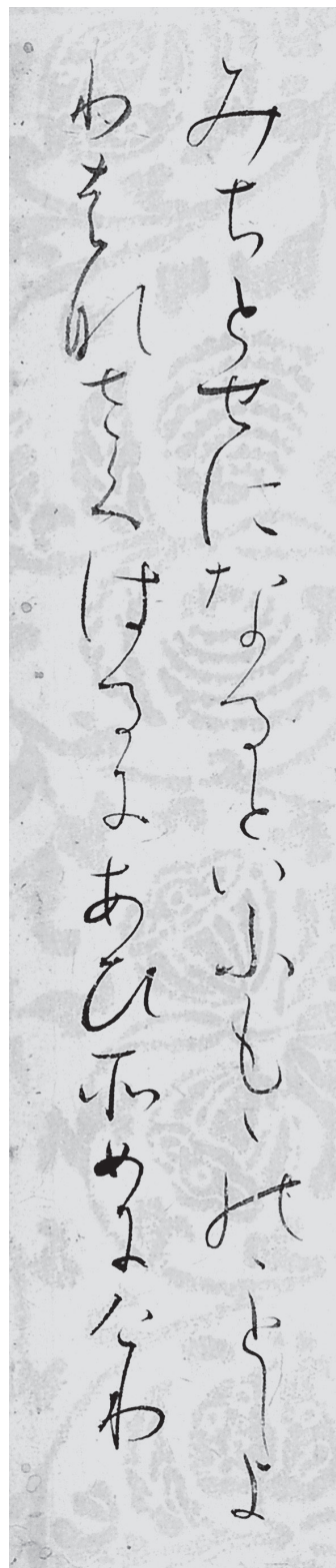
平岡華雪先生書 花謝し樹影無し。



訳:迷いの花落ち明暗の影なし。(安全のない形容)

平岡華雪先生書 葉桜にかけて真白き日よけかな(鬼城)





条幅随意部として

『みちとせになるといふも、能^のことしよ利者^り那^はさくはる^る尔^にあひ所^そめ^に介^に利^り』

半切二行に臨書する。字と字の間がほぼ均等であることに注意する。落款は、全体の調和を考えて「〇〇臨」と入れる。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。

条幅部は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「(臨)」と表示されます。

一字書（四月二十二日締切）

課題

解

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

二月号掲載昇試第一部課題手本補足

●漢字部

手本Aの「桃」の字の筆路が不明瞭でしたので、ペン書きで表示しました。ご確認下さい。

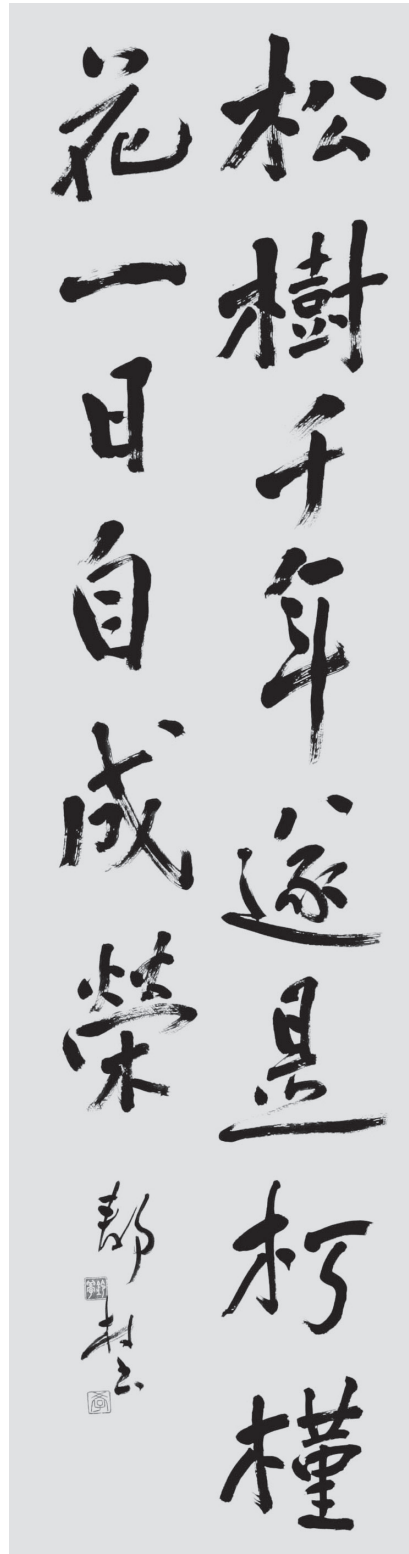


●かな部条幅課題

「うるはしき春野を過ぎてさわらびの萌ゆる山邊の藤浪をみつ」の「藤」は古語のかな遣いで「ふぢ」と記します。事務局の手違いにより、手本Bでは「ふ志」と揮毫されていますが、正しくは「ふぢ」となります。お詫びして訂正いたします。尚、この部分については昇試審査には影響しません。

A
鈴木静村先生書

松樹千年遂是朽 槿花一日自成榮 (白楽天)
松樹千年遂に是れ朽つ。槿花一日自ら榮を成す。



B
高橋香樹会長書

和筆三号短鋒。墨磨り代え。楷書ながらポツテリと北魏調。木偏もこの軽妙なりズム感の導入により「動き」での変化。字体に異体文字(年・遂)使用。字典を調べ、入れ代え自在。思う存分自分を打ち出してほしい。



今月は久し振りに楷書作としました。今回の課題は、木偏が多く「松・樹・朽・槿」、木を有する字「榮」もあるが、楷書の為意識的に変化はさせない。「樹」にはこの形がある。「年」楷書にはこの形多い。「花」はこの形行書、隸書にある。運筆は楷書ではあるが、長画は一呼吸ではなく、二・三呼吸にて書きました。

訳：松は常緑樹であるが、千年の後には枯れて朽ち果てる。槿花(むくげの花)は朝さいて夕べにしぼむ。生死榮華のはかなきことをいう。

予告 (五月二十二日締切)

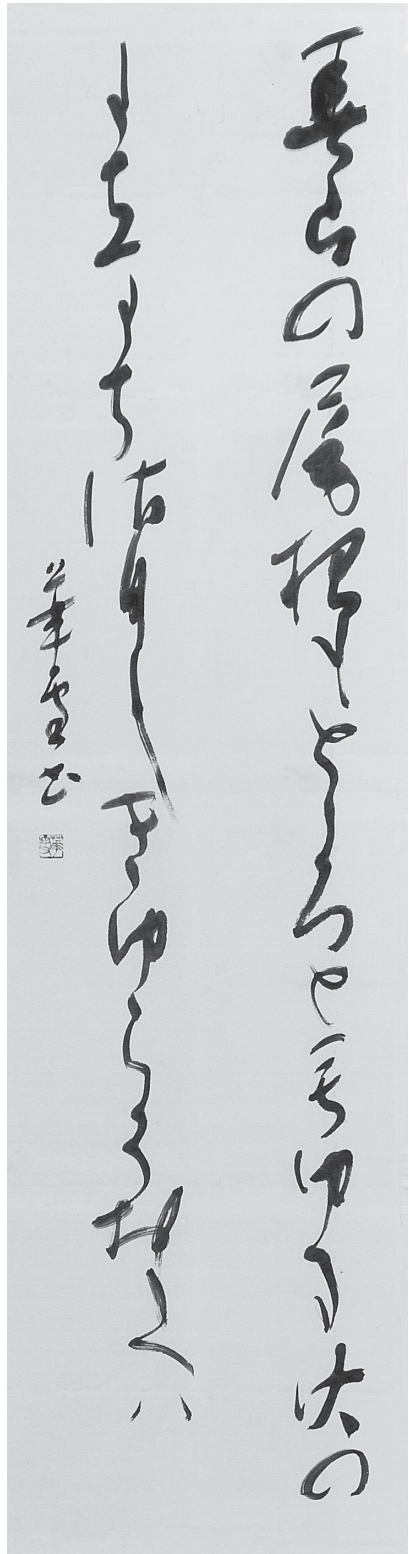
桃李不言下自成蹊 (史記)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A 平岡華雪先生書

春山の尾根もどろと燃ゆる火のたちまちさびし消ゆらく思へば(北原白秋)

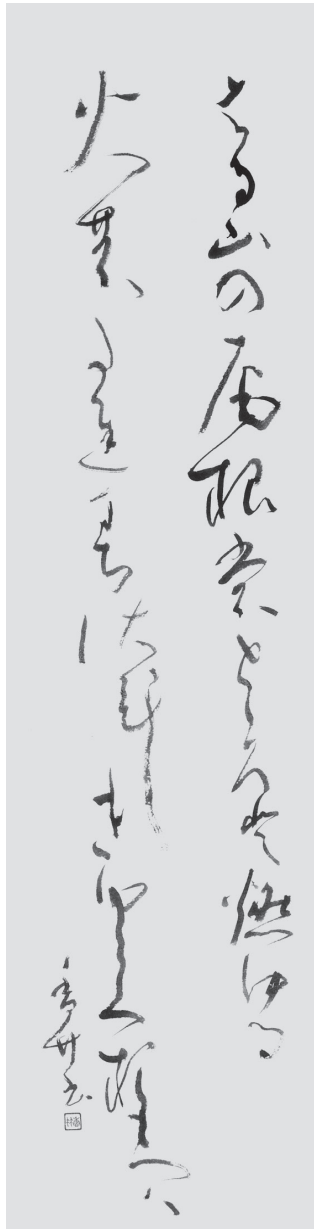
(注) もへ



B

青柳香竹先生書

者る山の尾根裳とろ登燃ゆる火農多遅万ち佐飛しきゆら久於もへ八



北原白秋

一八八五〜一九四二(明治一八〜昭和一七)年。

福岡生まれ。詩人。耽美派の代表的歌人。芸術院会員。与謝野鉄幹に師事し、「明星」に参加した。詩集『邪宗門』、歌集『桐の花』『雲母(きくら)集』『雀の卵』『白南風(しらほえ)』などがある。

学び方

条幅を楽しんで書きましょう。

〈文字の大小・太細の変化と墨の潤濁について〉

小さい文字は遠くに感じられ、墨量が多い部分は手前に、墨量が少なくかすれた部分は奥まって見えます。紙面に奥行きが感じられ、視覚的にインパクトを出すこととなります。「者る」を小さく書き始め、「尾根」は大きく、ふっくらと意識し自然な変化を生じさせました。二行目の頭からは大きくゆったりそして渴筆に。「きゆら久」で墨継ぎし、添えるように行に変化をつけました。ここで潤濁の変化も意識しています。工夫をして仕上げて下さい。

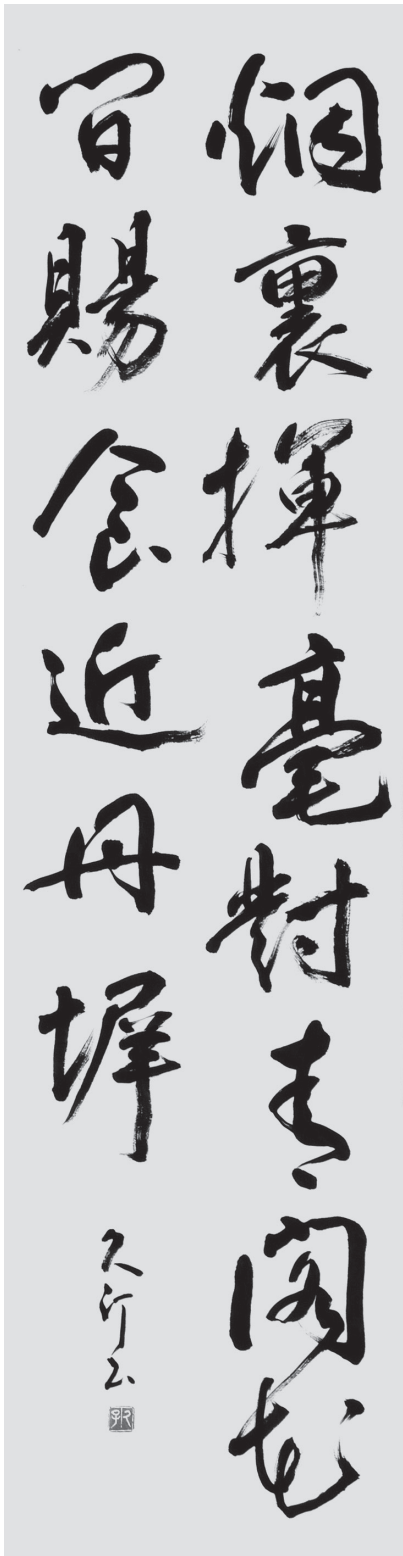
予告 (五月二十二日締切)

花ちれば訪ふ人まれになりはていとひし風のをとのみぞする(新古今和歌集 刑部卿範兼)

- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

笹崎久汀先生書

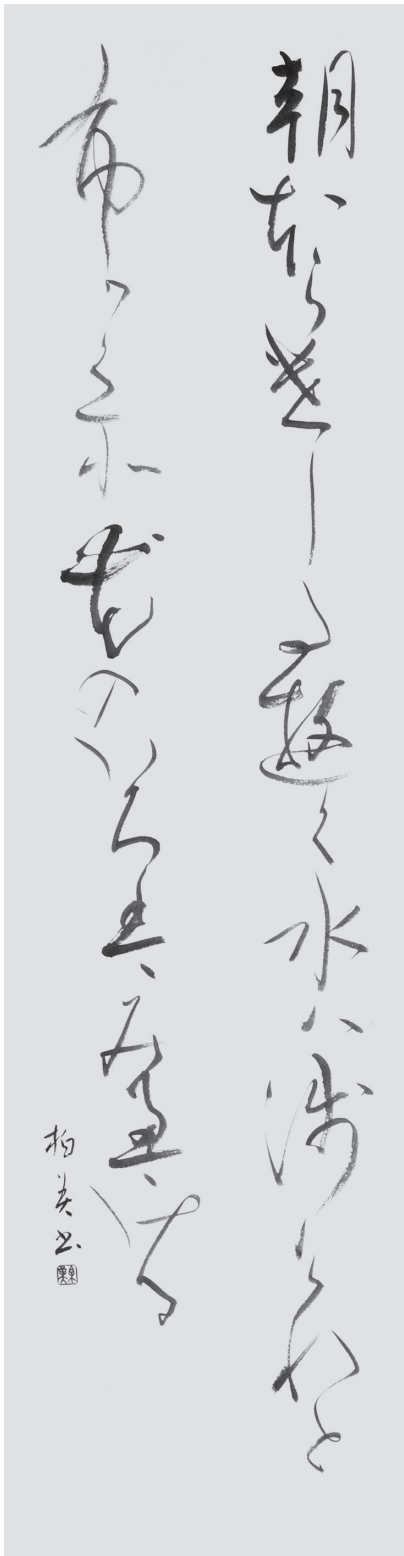
烟裏揮毫對青閣 花間賜食近丹墀（錢起）
 烟裏毫を揮い青閣に対し、花間食を賜うて丹墀に近く。



訳：春がすみのこめる所で筆を執って青閣に対して書き、花のある所には賜饌ありて帝宮の御階に近づく。

石島柏美先生書

朝ぼらけした行く水は浅けれど深くぞ花の色はみえける（紀貫之）
 朝本ら遣し多遊久水八浅介れと布可久所花のいろ盤み盈ける



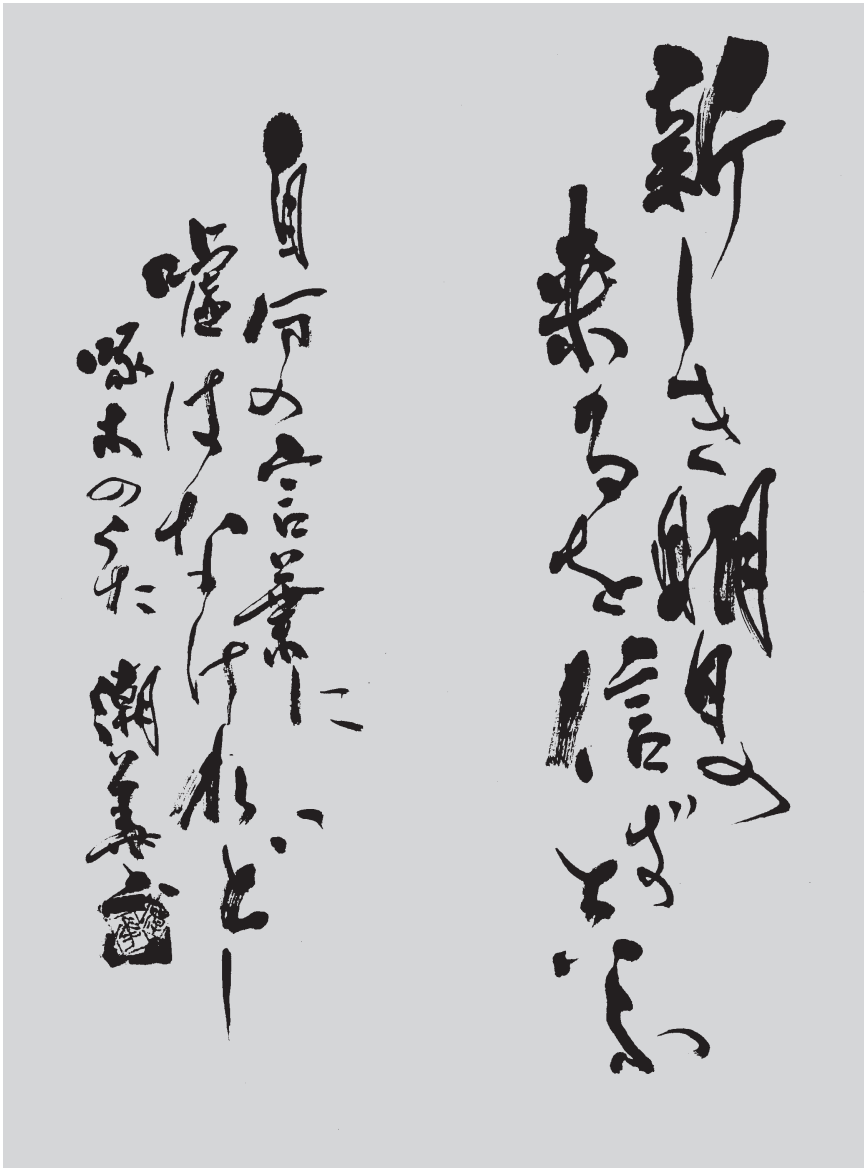
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

水貝潮華先生書

新しき明日の来るを信ずといふ
自分の言葉に
嘘はなけれど——

石川啄木『悲しき玩具』

啄木の「三行書き短歌」の特徴を生かし、上の句をメインとし、少し大きめに、そして下の句を小さめに書いています。
中央にタップリと余白を採り、単調を避け、また窮屈とならないようそれぞれの行を照応させながら、動きを持って書いてみました。
みなさんも漢字と仮名の基本に基づいた筆遣いで独自の作品を作り上げて下さい。



石川啄木（一八八六～一九一三）

本名一。岩手

県日戸村生まれ、浪民村で代用教員生活の後、北海道に渡り、地方新聞記者となる。作家を目ざして東京に出るが、結核のため二十三歳で病死。盛岡中学時代、『明星』に歌一首が採られ、雅号を「啄木」とした。その後、明星派詩人としても出発するが、窮乏生活の中から生活派短歌の先駆者となる。大逆事件（一九一一年）に関心をかたむけ、社会主義への傾斜を深めた。歌集に『一握の砂』、遺歌集『悲しき玩具』がある。

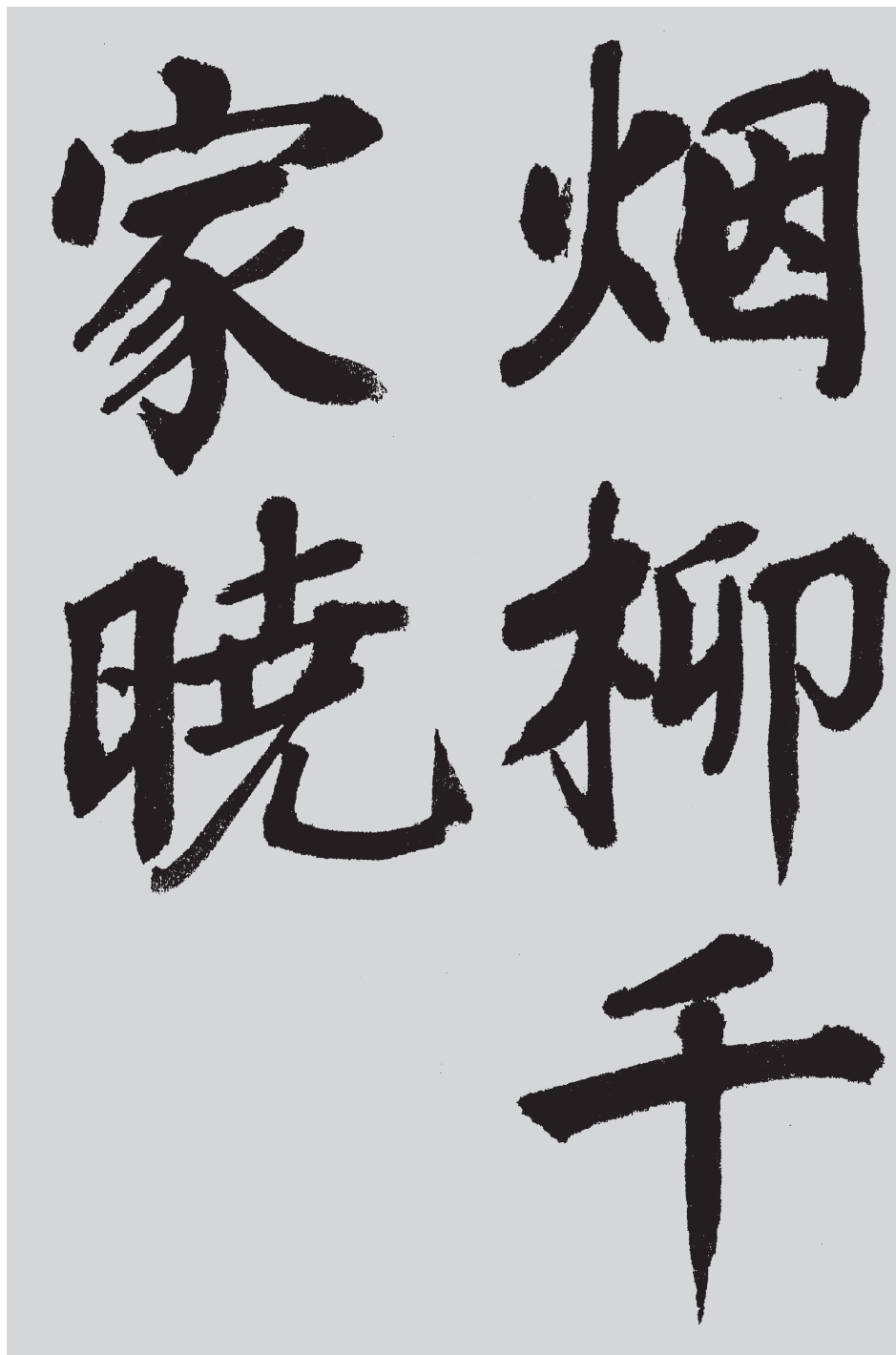
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

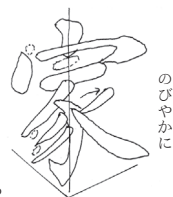
煙柳千家の暁(劉鐸)

訳：朝の町には柳がけぶり、(みわたす限り春の花とそよ風)



〈伸びの用筆にも注意点〉

隣文字の画の接触には、充分な注意、「煙」三画目と「家」末画。「柳」の三画目と「暁」の末画。なお、「柳」と「千」の末画は長くいきいきと。

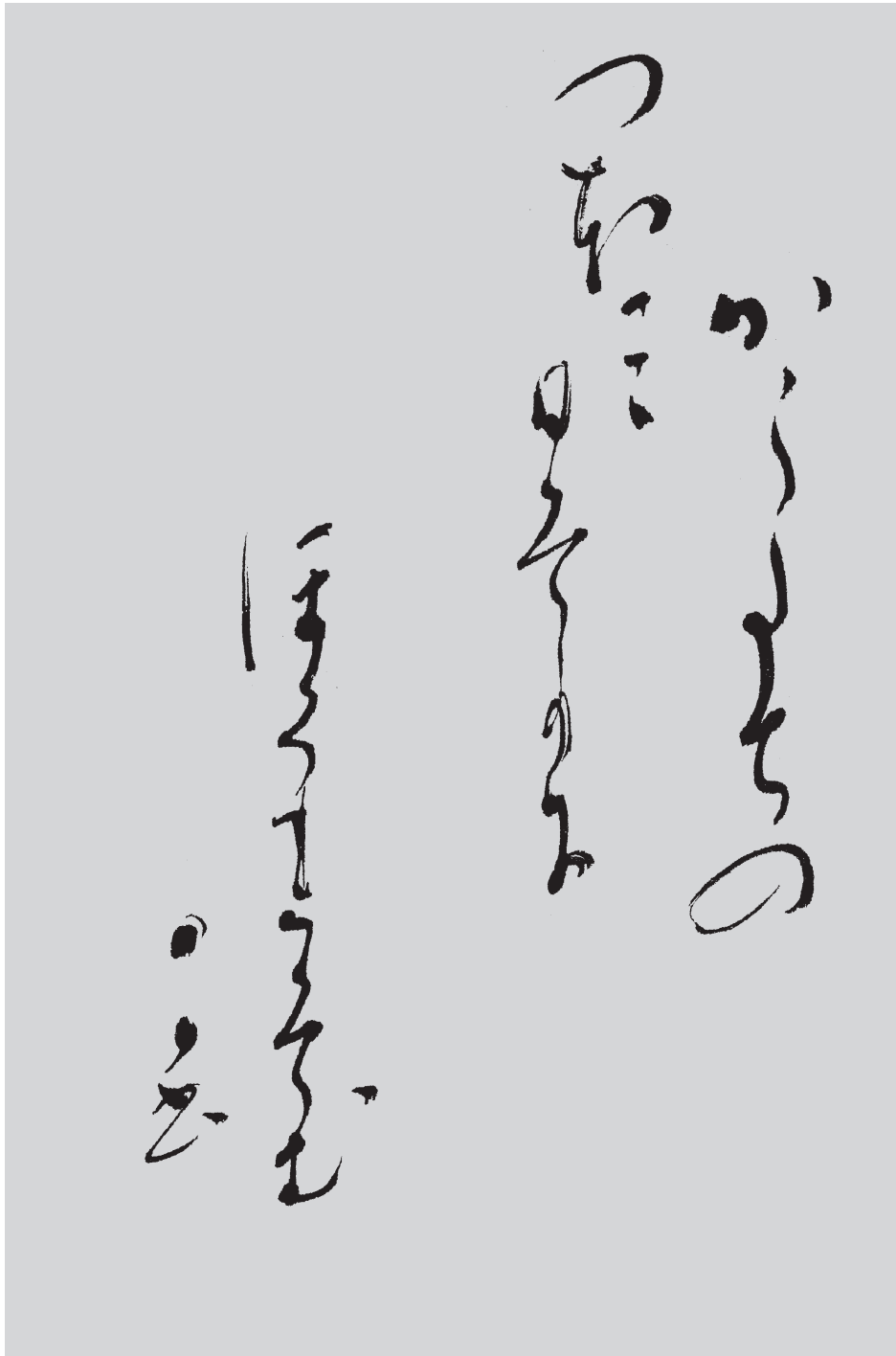


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

からたちのつばみひそかにほぐれそむ (清風郎)
 から多ちのつ本三日そ可尔ほ久連そむ



〈「かな」(平かな・変体かな)のみの表現に挑戦〉

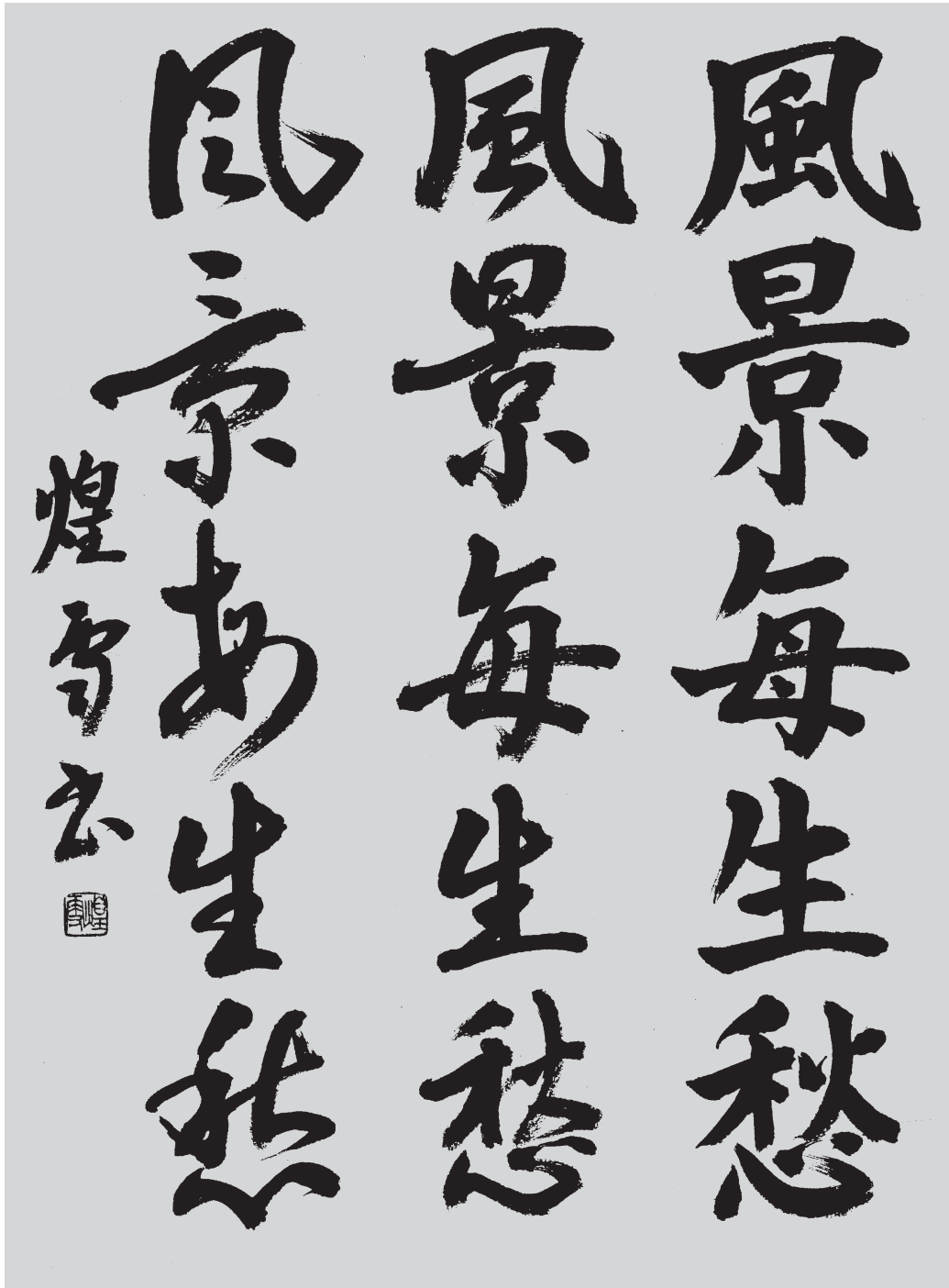
「ら」腰を細め。「多ち」強い連綿。「の」細身で字幅。「本」点大きく弾く。
 「三」鋒先でツンツンと突き返す。「日そ可尔」繊細な筆意で四字連綿。「ほ久連
 そむ」連綿の受け筆的確にきびきびと。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

星野煌雪先生書

風景毎生愁（李白）
風景毎に愁を生ず

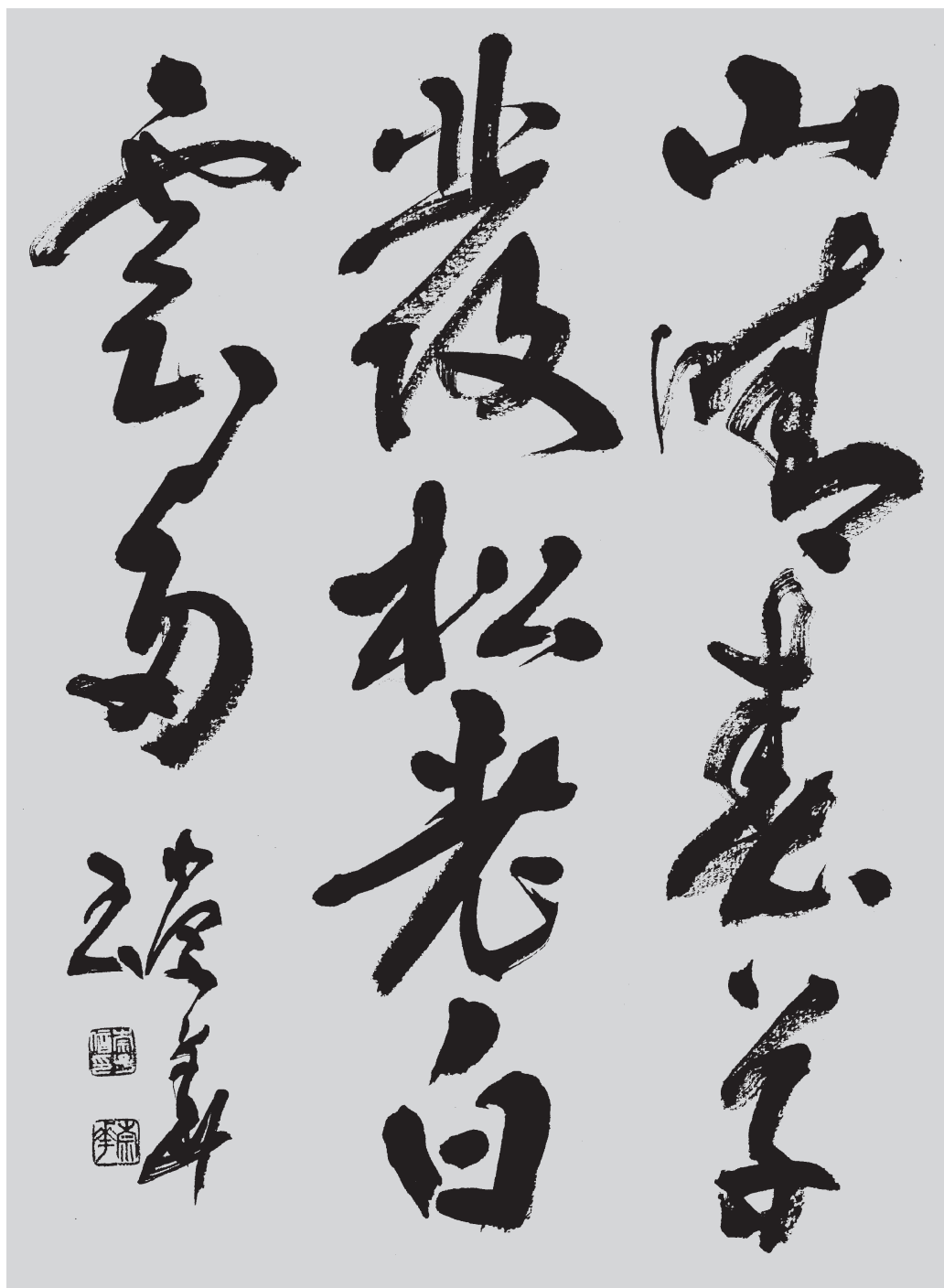


訳：あたりの風景は、いつも哀愁を感じさせる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

小林 崇華 先生 書

山晴春草發 松老白雲多 (朱韉)
やまは しんそうはつ しょうお しろくもおほ
山晴れ 春草発し、松老い白雲多し。

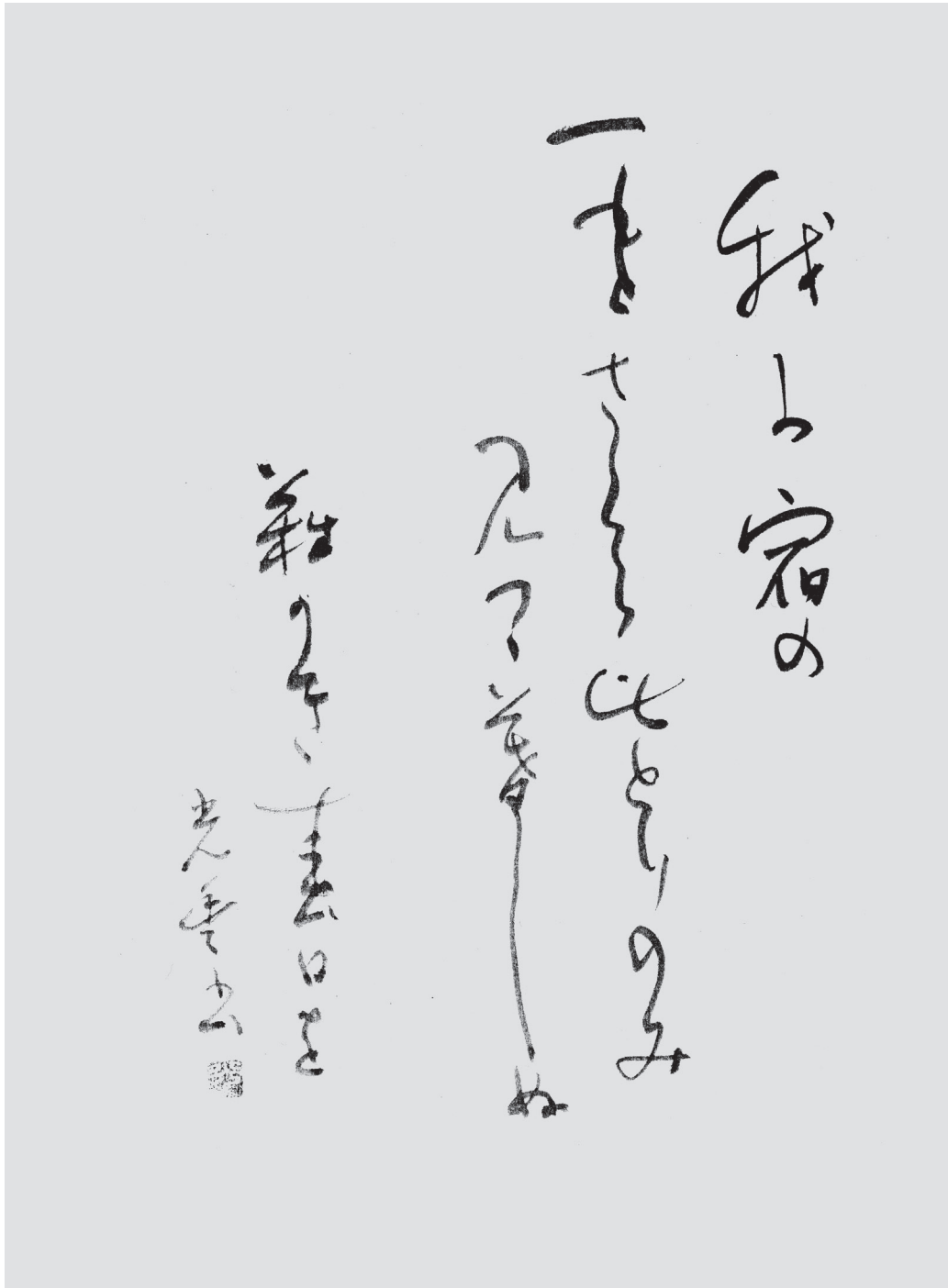


訳：山の色ははれて天気よく春の草は萌えいで、松は多くの年をへて白雲がかりやすい。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

絹
村
光
豊
先
生
書

我が宿の一もとぎくらひとりのみ見つつ暮らしぬながき春日を（木下幸文）
我可宿の一もとぎくら比とりのみ見つく暮しぬ難可き春日を



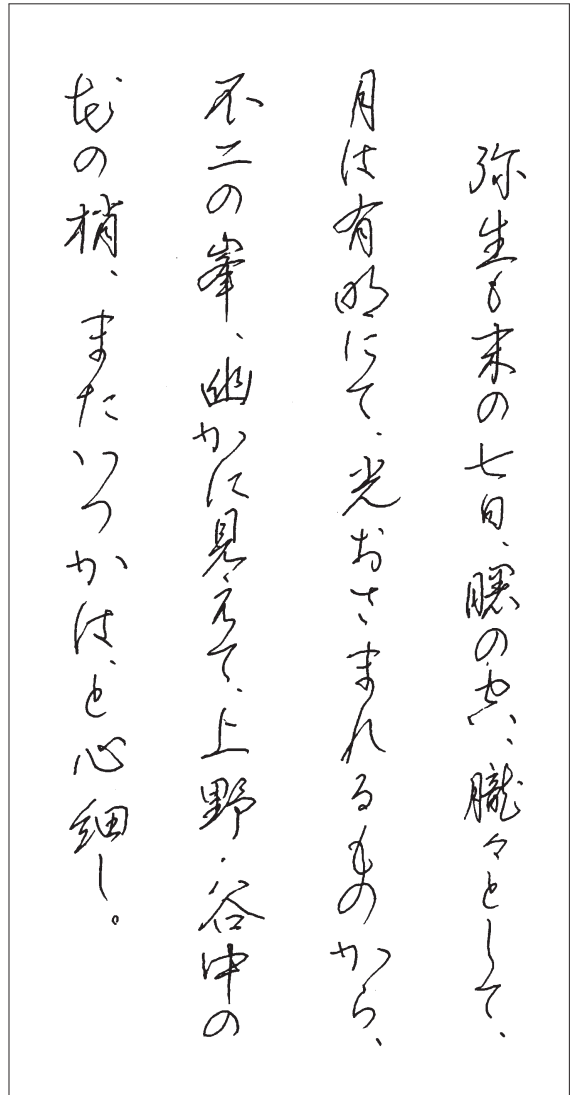
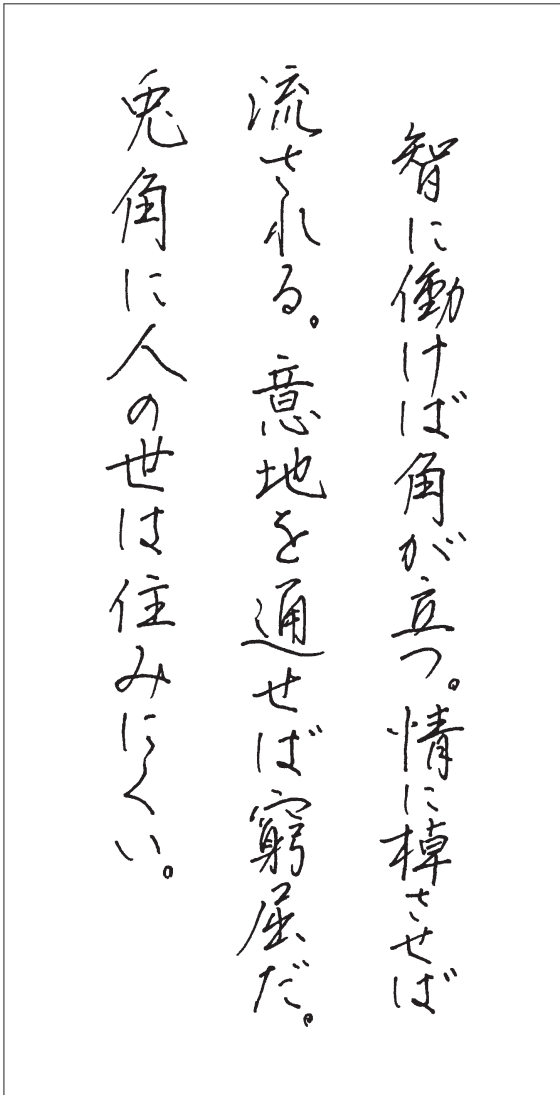
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

赤木典子先生書

川上香蓉先生書

課題 2 (初段格以下)

課題 1 (初段以上)



課題 1 (初段以上)

弥生も末の七日、曙の空、朧々として、月は有明にて、光おさまるものから、不二の峯、幽かに見えて、上野・谷中の龍の梢、またいつかは、と心細し。
 (『おくのほそ道』松尾芭蕉)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に、次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段格以下)

智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。

(『草枕』夏目漱石)